

## ゴルフと会食

写真は日本経済新聞 11月6日朝刊1面。「ゴルフコースでトランプ米大統領と拳を合わせる安倍首相。松山英樹選手も一緒にラウンドした(5日、埼玉県川越市の霞ヶ関カントリー倶楽部)=内閣広報室提供」

東京新聞 11月8日の斎藤美奈子「本音のコラム」で標題のテーマが書かれていたので紹介したい。このコラムは、文芸評論家・斎藤美奈子さんの鋭い本音が書かれており、愛読している。



ゴルフコースでトランプ米大統領と拳を合わせる安倍首相。松山英樹選手も一緒にラウンドした(5日、埼玉県川越市の霞ヶ関カントリー倶楽部) 一内閣広報室提供

米大統領を歓待する日本の首相はまるで宗主国の君主を迎えた被植民地の首領。それを嬉々として伝えるテレビは批判精神のカケラもないお祭り報道だった。

ゴルフと宴会を楽しむ両首脳。終始にこやかに進む会談の中身はしかし戦争準備の相談だ。「北朝鮮には軍事行動も辞さない圧力を最大限かけるのでいいな」「ああ、いいよ」「ついてはウチの武器も買っておくれよ」「ああいいよ」

互いにファーストネームで呼び合う二人はマブダチぶりをアピールするが、これを好意的に見るのは間違っている。

国内に目を転じれば、来年4月には加計学園獣医学部の開学が認可される見通しという。

加計学園の理事長・加計孝太郎氏と安倍首相もまた、ゴルフと会食をともに楽しむマブダチの関係にあった。米大統領とはビジネスを成功させた首相が、加計氏とは国家戦略特区に関する話をしなかったとでも？

友人と認知した相手は極限まで厚遇し、そうでない相手は「敵」と見定め極力冷遇、排除する。追及を恐れて臨時国会を召集しなかったのも、野党の質問時間を削減する方針もそれである。

ゴルフと会食で親密な関係を築くのは日本型オヤジ社会のあしき慣例でだからゴルフ友達、飲食友達になりたがる輩が出てくる。それが国家の動向まで左右する。ありえない!

(マブダチという言葉は知らなかった。ネットで調べると、気の置けない、本当の友だちなどと)

下の写真は、ニューヨーク・タイムズに11月5日に掲載された風刺画。先ほどの斎藤さんとともに、これもフェイスブックで知った。アメリカと日本の



「従属関係」をうまく表現している。こんな風刺画を日本でも期待したいが。

(2017年11月13日)